エンパワーするNGO
YWCA

年次報告書 2023

公益財団法人 京都 YWCA

YWCA はキリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界の実現をめざす国際 NGO です。YWCA は日本を含む 100 以上の国、地域で活動しています。

京都YWCAがめざすもの

- 女性や子どもの人権が守られる社会
- 多様性を尊重し異なる文化や背景を持つ人々と共に生きる社会
- あらゆる暴力を否定する社会
- 「核」のない持続可能な地球環境

2023年度を振り返って

2023 年度は京都 YWCA 創立 100 周年の記念すべき年であり、さまざまな記念事業を通じて京都 YWCA の内外のつながりを再確認した年でした。

10 月にガザ地区をめぐる暴力の連鎖が始まり、長くパレスチナ YWCA 支援を続けている日本 YWCA からの報道機関への要請や即時停戦を求める声明に賛同を表明し、オンライン開催された世界 YWCA 総会の若い女性のジェンダー平等、暴力のない世界へ向けた発信には連帯感をもって耳を傾けました。

京都 YWCA はヴォーリズ建築であるサマリア館の「うららかふぇ」を軸に居場所づくりを進めていますが、一昨年度より横浜 YWCA と福岡 YWCA と協働する地域連携事業「多様な人々が集う居場所づくり」プロジェクトを進め、互いの経験から学び合いつつ新たな居場所づくりに挑戦しています。

また、子どもと若者の居場所「Y ここ Kitchen」をほぼ週 4 回のペースで開き、自立援助ホーム「カルーナ」の利用者や退所者、若者就労支援事業の対象者、生きづらさを抱える子どもや若者、外国ルーツの子どもが集う場となっています。高齢者住宅「サラーム」の多くの居住者もここで提供される食事を夕食として利用されています。

開園 4 年目を迎えた京都 YWCA あじさい保育園は、キリスト教基盤と多文化共生を掲げる保育園として、保育プログラムにもその特性を徐々に取り入れており、YWCA らしい保育園への歩みを進めています。

戦争や暴力によって人権が著しく脅かされている世界情勢の中で、平和・環境活動委員会では、さまざまな差別や抑圧の歴史を学ぶ機会をもちました。北海道への記念旅行を契機としたアイヌの歴史を知る学習会、「沖縄、再び戦場へ」上映会、2.11 集会として「交差する差別と闘う女性たちの 100 年　婦人水平社設立 100 年」を開催しました。

京都 YWCA は、社会の動きを捉えつつ、目指す社会の実現のための適切な組織運営体制づくりに向けた努力も続けています。今後も皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

京都YWCAは100周年を迎えました

1923 年の設立以来、京都 YWCA はキリスト教を基盤にして女性の自立的な生き方を支援し、女性の視点から社会を変革する活動や事業を行ってまいりました。

2014 年度より「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり＊」を推進しています。現在、京都 YWCA では日常的に乳児から高齢者までが行き交い、生きづらさを抱えた人や多様な背景を持つ人々が出会う居場所を提供しています。100 年目となった 2023 年度には、100 周年記念募金を始め、さまざまな記念事業を開催いたしました。

（＊2013 年度国土交通省「高齢者・障がい者・子育て世帯居住安定化推進事業＜先導的事業＞」選出）

記念式典（9 月 23 日）
京都ブライトンホテルにて
開催しました。
演奏が式典を盛り上げました。

記念旅行「釧路 YWCA 訪問」
（10 月 6 日～9 日）
釧路 YWCA 訪問で、会員活動から始まった YWCA 運動の原点に立ち返り、網走にも足を延ばして歴史を学びました。

◀ 奥に見える多様性を象徴する花は（株）ローランズによるものです。

記念公開シンポジウム「排除なく誰もが花咲く社会～多世代・多文化ふれあいコミュニティの実現～」（2024 年 1 月 27 日）　株式会社ローランズ代表の福寿満希さんの基調講演と、「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」の核となる若者支援、外国人支援、ユースのエンパワメント活動を紹介しながら、誰もが花咲く社会の実現に向けた提言も行いました。

プロギング

ウォーキングしながらゴミ拾いをする活動をほぼ 3 カ月に一度実施しました。

100 周年記念募金の一環として、昨年に続いてヴォーリズ建築サマリア館補修のためのクラウドファンディングを実施しました。

京都 YWCA の事業の全体図

若い女性のエンパワメント

全ての女性にとって自分らしく生きることのできる社会をめざして

自立援助ホーム「カルーナ」

自立援助ホーム「カルーナ」は９年目を迎え、定員を６名から７名に増やしました。社会的養護を必要とする若い女性にとって安全・安心な場所の必要性は高く、児童相談所を含め、さまざまな支援機関から、絶えることなく入所相談の連絡が入ります。

カルーナの利用者は現在、７名中５名が高校生です。高校へ通学しながら、自立をめざすことは容易ではありません。日々、出席日数や成績を気にし、友人関係に悩み、ときには自立に向けて話をし、家族とのこれまでの関係と向き合う日々を過ごしています。カルーナのリビングで利用者同士が話すことで、共感したり、意見が合わなかったり、さまざまな考えを知る機会も増えています。

2024 年の春から、１人がカルーナを退所し、一人暮らしを始めます。不安を抱えながらも、これから社会の中で生きていきます。本人にとって、選んだ環境が少しでも生きやすいものであることを願うばかりです。また、自立（独り立ち）を控えている利用者もいます。これからの生活に向けて、自身と向き合い、思い描いた未来に進めるよう一緒に考えていきたいと思います。

定員が増えることで人的資源を増やし、アフターケアにも力を入れてきました。退所し、地域で生活するなかで困ったことがあれば相談できるように、支援物資を送って様子を伺うなど、カルーナとのつながりを継続できるように努力しています。皆様からの寄付・寄贈により、必要な物品を準備することができました。

今後とも利用者・退所者の心身の健康を保たれるように、安全・安心な居場所を提供していきたいと思います。

入居者や退所者の成人式を兼ねた新年会を毎年実施

トラウマへの理解を深めた1年

５月には「プリズン・サークル」（坂上香監督作品）の上映会および藤岡淳子さん（大阪大学大学院名誉教授）の講演会を開催しました。映画の中で受刑者達は、自身の犯した罪だけでなく、それぞれが抱える被虐待経験などのトラウマにも向き合っていました。

夏から秋にかけては「トラウマインフォームドケア連続講座」を全６回開催しました。オンラインで実施したこともあり、全国からさまざまな方が参加されました。

２月には小川恵美子さん（精神保健福祉士、日本学術振興会特別研究員）に「トラウマインフォームドケアと支援者支援」について講演していただきました。ストレスに対応する力（レジリエンス）を高めることの必要性と、支援者が陥ってしまう状態などについて学びながら、対面・オンラインでグループワークも実施しました。

トラウマに関するさまざまな講座を受ける中で、毎回欠かさず出てきた言葉があります。それは「安全・安心」です。安心できる場所や支援者とのつながりがあることで、支援対象者がトラウマと向き合い、自分らしい人生を歩んでいくことに繋がります。支援対象者が「ここは安全だ」と思うことで安心できるような居場所づくり、関係性づくりを、これからも京都 YWCA で行いたいと思います。

プリズン・サークル上映会と藤岡淳子さん講演会

ユース委員会の活動

ユース委員会は若者による若者のための活動として、主に Rise Up! リーダーシップワークショップ、「Y ここ Kitchen」とのコラボ企画、夜かふぇを企画運営しています。

『Rise Up!』は世界 YWCA が発行した若い女性が社会を変えるリーダーになるためのガイドブックです。個人の特性を生かしたリーダーシップを誰もが発揮できるようになるためのトレーニング手法が掲載されています。３校の中高生に対してこのガイドブックを基にワークショップを開催しました。

７月 12 日のワークショップでは、初めて３校が同時に参加し、学外の同年代の人と話す貴重な機会となりました。最初は緊張気味だった 26 名の中高生も、最後には笑顔があふれました。

10 月から 12 月には「音楽を通して見える社会・変える未来」と題して２部構成のワークショップを行い、約 30 名が参加しました。まず、本当に好きな音楽を紹介することで、リーダーシップを発揮する可能性をもつ自分を大切にすることや好きなものを表現する権利について理解を深めました。第２部ではアクションプランを考えました。企画をグループのみんなに賛同してもらえ、具体的な準備過程を楽しむ中高生の姿を見て、社会を変革するためのリーダーになるステップを一歩ずつ歩んでいることを実感しました。

国際女性デーである 2024 年３月８日には、アドボカシー（現状を変えるための政策提言や広報）を実際に行うワークショップを開催しました。参加した中高生の声を京都 YWCA ユース委員会の SNS に投稿して世界的なジェンダー平等を求める動きの一部になれたことで、自信を深めました。

初の３校合同ワークショップ

音楽を通して平和について考えました

ユース委員会にとってのセーフスペース（安心して過ごせる空間）が「夜かふぇ」です。2023 年度は４回開催し、家族やディズニー作品について語り、ファッションの視点からジェンダーに切り込んだり、メンバーのリーダーシップを認め合ったりしました。日々のもやもやすることや嬉しいことを安心して話せる場として、メンバー自身のケアに繋がっています。

夜かふぇはオンラインで行われます

2023 年度には「多世代協働」を意識し、YWCA 会員向けの夜かふぇを１回、Rise Up! リーダーシップワークショップを一般公開で２回開催しました。ユースだけで実施したときとは異なる学びや気づきが得られました。

居場所事業とのコラボ企画

生きづらさを抱えた若者のための居場所食堂「Y ここ Kitchen」（p.8）とのコラボ企画として、自己を理解し開示するワークショップを行いました。６月には「自分の気質について」、11 月には「コミュニケーションについて」をテーマにみんなで語り合いました。遠方に住むユース委員とはオンラインでの交流ですが、画面越しの交流に「Y ここ Kitchen」の参加者も慣れてきた様子でした。

「Y ここ Kitchen」には、さまざまな事情があり自分の気持ちを言葉にすることが難しい参加者もいます。自分のことを話して誰かに受け止めてもらう経験を重ねながら、一人ひとりにリーダーシップ（社会を変える力）があるということを伝えていきたいと思います。

外国にルーツがある人々と共に生きる社会へ

背景の違いによって排除や分断が行われるのではなく、その多様な背景を互いに理解し、受け入れる生き方を大切にします。

多言語による相談事業　APT(Asian People Together)

コロナの影響から脱し元の生活を取り戻しつつある相談者も、変わらず生活苦を抱えています。最近の傾向としては、相談者の国籍が多様になり、中でもネパールやベトナムなどの人たちの相談が増えていました。また、日本人の配偶者としての在留資格ではなく、労働や留学の在留資格を持つ人からの相談、特に妊娠・出産に関わることが多くなっています。労働者として日本に滞在している人たちを守る法はまだ十分に整備されていないため、どのようにして援助できるのか、関連する機関と相談を繰り返しました。相談内容全体としては、DV 被害による避難や保護、離婚などの支援が変わらず多く、相談者たちが今後も日本で生活していけるように、長期にわたり寄り添って支援をしています。

このように多様化する相談に対応するために、外国人支援の在り方、通訳の心得、在留資格などについて研修を行いました。また、母子保健、DV、児童相談などの専門機関、医療機関や教育機関、および行政機関との連携をさらに深めました。

2021 年に APT は 30 周年を迎え、記念誌を作成しましたが、これをきっかけとして、今まで APT で活動してきた人たちの Homecoming Day と称してオンラインで集いました。京都だけでなく九州や関東、東北、そして、アメリカやスイスからも参加し、現在の APT の活動の様子、それぞれの近況を共有し、思い出を話したりしました。参加者それぞれが、APT での活動経験が今の自分の人生の根底にある、と話してくれたのは嬉しいことでした。

大活躍してもらった 2 名の学生
インターン卒業お祝い会にて

多文化ルーツの子どもたちのセーフスペース

多様な背景を持つ子どもたちが日本社会で生きていくための学習を支援し、さらにさまざまな体験を一緒に分かち合いました。

毎週月曜の定例学習会のほか、出張での高校受験のための短期集中学習支援を実施。また引き続き日本語および教科別の個別学習支援も行いました。毎月第 4 月曜には、京都 YWCA 親子ライブラリーと共に、絵本の読み語りを通じて日本語が持つリズムや表現、物語を楽しみました。

「ひらかたパーク」へのおでかけ、大学でのキャンパス体験、また「滋賀県立びわ湖こどもの国」でのキャンプ、親や APT の相談者も参加したクリスマス会で、多くの家族と喜びを共にしました。

学習支援と居場所であるセーフスペースとして、また船出する港としての働きも模索していきます。

春のおでかけプログラム @ ひらかたパーク

クリスマス会、ゲームで盛り上がり！

夏のキャンプ

学習風景

京都YWCAにほんご教室「洛楽」

日本語教室「洛楽」は、1 クラス 2 ～ 6 名の少人数制で、入門・初級・中級・上級の 4 レベルのクラス編成により日本語学習を週 5 日行っています。日本語講師 14 名が 14 クラスを分担し、約 60 名の受講生が日本語を学んでいます。

クラスでは講師がそれぞれ独自の教え方で受講生と楽しく勉強していますが、定例ミーティングでは授業内容や指導法の共有、外部研修内容の伝達を行い、講師個々の指導力を高める工夫をしています。

今年度は 2 月に講師・受講生とその家族・職員を含む総勢 40 名で「洛楽交流会」を開催しました。交流会では受講生のスピーチや生け花の実演、サリーの着付けなど色々な発表があり、受講生たちは日本や世界の文化紹介を楽しみました。また、クイズやゲームも行い盛り上がりました。発表者が伝えたいことを日本語で表現できた喜びを味わったり、聞き手が日本語理解に自信を持ったりして、交流会は受講生たちにとって自分の日本語の理解レベルを意識するだけでなく、新たな学習目標を持つよい機会ともなりました。受講生たちの日本語に対するこの意識の高まりを今後の日本語学習に活かしたいと考えます。

にほんご教室洛楽のロゴ

初級クラス授業風景

入門クラス授業風景

洛楽交流会

多様な文化とふれあう多文化保育に協力

保育園での多文化保育に協力しています。希望の家カトリック保育園では昨年に引き続きベトナムの紹介をし、京都 YWCA あじさい保育園ではインドネシアの紹介をしました（写真はあじさい保育園）。

影絵（ワヤン）を使ってラマダンの説明をしました

講師によるジャワ島のクジャクの踊りを見ました

ジャワの踊りのお面をつけてみました

その他の事業

DV 被害を受けた移住女性の自立支援として、日本語学習をサポートしました。遠方での避難生活者にはオンラインで、京都市内在住者には対面で実施しました。

コロナ禍の影響は未だ払拭されず、また物価高騰もあり、相変わらず生活困窮者が多かった一年です。引き続き食料品や生活物資を定期的に配布しました。

助成金報告

※清水育英会×中央共同募金会「経済的困窮や社会的孤立の状態にある子どもの学習と生活を一体的に応援する助成」（2022 年 10 月～ 2023 年 9 月）

※中央共同募金会「赤い羽根ポスト・コロナ（新型感染症）社会に向けた福祉活動応援キャンペーン－外国にルーツのある人々への支援活動応援助成」（2022 年 10 月～ 2023 年 9 月）

子どものエンパワメント

YWCA の長年の活動を活かす取り組みを保育園、地域の親子に向け行っています。

京都YWCAあじさい保育園

あじさい保育園は本年度 4 年目を迎え、50 名の子どもたちとスタートしました。

「さまざまな違いは豊かさである」と考える本園では、開園年より多文化と出会うプログラムを毎年開催しています。今年度は恒例の民族楽器ワークショップを全園児向けに開催したほか、保護者参加プログラムとしても実施。幼児対象の多文化体験はインドネシアのダンスやケチャを体験しました。

新たな取り組みとして行った 0 歳児保護者の離乳食試食会では、市販の離乳食との違いを体験いただき、乳幼児期の味覚の大切さ、家庭で手軽に離乳食を作る方法も伝えることができました。

秋の「収穫を祝う会」では、食物の恵みに感謝し、翌日は家庭から寄付された野菜を使った豚汁をいただきました。幼児たちが乳児のため食材を細かく切る様子に配慮が感じられました。

12 月のクリスマス会では、幼児は生誕劇形式での礼拝を持ちました。それぞれがイエス誕生の物語の一員として歌やセリフで演じ、1 年の成長を感じる機会となりました。

定員 60 名規模の保育園だからこそ、職員はすべての園児と接することができ、年齢が高い子どもたちは年齢が低い子どもたちに配慮ができ、年齢の低い子どもたちはお兄さん、お姉さんに憧れ、頼れる関係ができています。

新型コロナウイルス感染症が第 5 類になったことで、保護者向けのプログラムや、高齢者向け住宅サラームの居住者との交流、手話カフェのメンバーに手話を教えてもらう機会が持てました。保護者には保育園を知ってもらう機会が、子どもたちには保育者以外の人たちと出会う機会が増えた 1 年となりました。

「収穫を祝う会」でランチの準備をしています

幼児クラス　八瀬野外保育センターでのデイキャンプ

1 歳児　京都御所の小川で

地域の親子の育ちを応援

感染症の心配が軽減され、子どもや親子が参加できる数々のプログラムを実施し、参加者が触れ合う機会を提供でき、コロナ禍を経て「集う」豊かさを取り戻しました。

あじさい保育園との連携が進み「地域子育てステーション」は今年度より「リズムと絵本のひろば」として、リズムあそびと絵本の読み語りを同時に楽しめるようになり、乳児でも参加しやすくなりました。「子育ておはなしかい」も、日々の子育ての悩みを話し合えるセーフスペースとして定着しました。発達に心配のある子どもを育てる人を対象とした「おやのだんわしつ」では個別相談にも応じています。

初めての試みとして「親子でスイーツ」を実施し、一緒に美味しいお菓子を作る体験を通して「食」への関心を高めることができました。

小学生向けプログラム「ガジュマルの樹」を年 3 回実施し、コロナから解放された子どもたちが、おもしろ科学実験やピザ作り、手話や英語を使った遊びなどで、のびのびと活動しました。高校生がリーダーとして参加し双方がエンパワーされました。

恒例の「あきまつり」では、リズム遊び、ビッグアート、民族楽器ワークショップ、竹パン作り、コンサート、絵本の部屋、みつろうラップの実演、リサイクル市ほか多彩なプログラムを行い、多くの親子が集い秋の一日を楽しみました。

京都 YWCA を核にして、保育園の園児をはじめプログラム参加者、地域の親子やボランティアが安心できるコミュニティを形成していることが実感できる一年となりました。

ガジュマルの樹　粉をこねこね、おいしいピザになぁ～れ！

あきまつり　楽器の音色に子どももおとなも魅了されました

たまねぎ染めにチャレンジ！どんな模様になるかな

セーフスペースへの取り組み

さまざまな「居場所」の提供をめざしています

子ども・若者居場所事業「YここKitchen」の取り組み

京都 YWCA サマリア館のうららかふぇを使って、月・水・木・土の週 4 回 15:00 ～ 20:00 の時間帯で、小学生から 35 歳までを対象とした居場所事業を行っています。2022 年 4 月に正式にオープンし、無事 2 年目を終えることができました。

利用者は、自立援助ホーム「カルーナ」の退所者や地域に住む若者で、主な活動内容としては夕食の無料提供や年 2 回の生活支援物資の配給、日常の困り事の相談で、必要に応じて支援機関に繋いだり、同行支援やさまざまなプログラム企画を行いました。

みんなでおしゃべり♪

1 年目から行っていた美ボディワークやストレッチ、心理ワークなどの自分の心や体に目を向けたプログラムや、講師をお招きしたメイクレッスン、就労支援に役立つようにと Excel や Word を学ぶ PC 教室、京の風物詩である「大文字」の鑑賞会を企画し、多くの若者が参加してくれました。また、おでかけ企画として、普段家にこもりがちな若者が自然に触れ、みんなで思い切り体を動かせるようにと、秋には BBQ、春には鴨川へおでかけするプログラムも開催しました。

「生きづらさ」を抱える若者たちが、生きていていいという「生きやすさ」を少しでも感じられる場として、「Y ここ Kitchen」に来て、手作りの食事を食べ、心も体も満たされ、次のステップに進んでいけるように、2024 年度は少し形を変えながら、居場所運営を続けていきたいと思います。

BBQ「おいし～！！」

地域YWCAを中心とした活動(Local Action)
～YWCAのネットワークで居場所事業を活性化～

社会貢献活動の拠点として、日本には 24 の地域 YWCA があります。京都 YWCA もその一つです。日本 YWCA が 2017 年に開始した「LA（Local Action)」は、地域 YWCA が主体となり、相互協働で展開する社会貢献活動のサポート事業です。京都 YWCA は横浜 YWCA、福岡 YWCA と共に「多様な人々が集う居場所づくり」プロジェクトで、第 3 期 LA (2023 ～ 2024 年度) に参加しています。

京都 YWCA が推進する「多世代・多文化ふれあいコミュニティ」の要は「うららかふぇ」だと捉え、命を守る「食」の介在が、誰もが自分らしくいられる「居場所」事業の活性化につながるのでは、という発想からプロジェクトは始まりました。

プロジェクト初年度となる 2023 年度は二つのプログラムを行いました。一つ目は、「食 / 居場所」というテーマで活動・事業を展開する全国の地域 YWCA をつなぐオンライン情報交換会。二つ目は、横浜・福岡・京都 YWCA 並びに居場所事業を展開する外部団体の視察プログラムです。これらを通じ、YWCA が持つネットワークや女性団体として歩んできたダイナミズムを再認識し、他団体からは新しい視点を得ました。

2024 年度は「多様な人々が集う居場所づくり」に必要な知識やスキルを学び、YWCA が取り組む誰にとっても安全で安心できる居場所「セーフスペース」について社会に発信することにチャレンジしていきます。

子ども・若者支援に取り組む NPO 法人ハピネス運営の
カフェ「and happiness」で記念撮影

京都YWCA100周年記念募金は目標額を達成しました！

2021 年 4 月より開始した 100 周年記念募金は 2024 年 3 月をもって終了し、お陰様で目標額 1000 万円を達成することができました。YWCA 内外の多くの皆様からのご協力とご支援に、心より感謝申し上げます。

昨年度に続き実施したサマリア館補修のための 2 回目のクラウドファンディングを通したご寄付などもあり、長年の懸案であったヴォーリズ建築事務所設計による築 88 年のサマリア館補修工事が実現できました。

サマリア館を今後も居場所事業を含む活動・事業の大切な場として使っていきたいと思います。

塗装も新たなサマリア館玄関

玄関の煉瓦塀をモチーフにした記念誌の表紙

9 月には 100 周年記念誌『古都に咲いて 100 年―女性の視点から社会の変革をめざした歴史を未来へつなぐ』を発行しました。

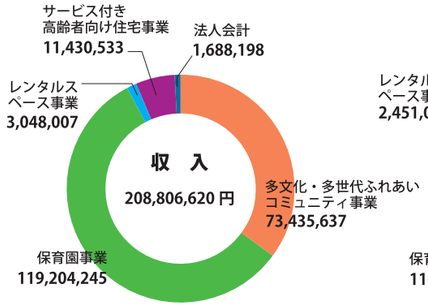
記念誌では、先人たちが暴力のない平和な社会を求め、「共に生きる社会」の実現のために困難を乗り越えながら活動・事業を続けてきたことを確認するとともに、京都 YWCA のこれからについても展望しました。

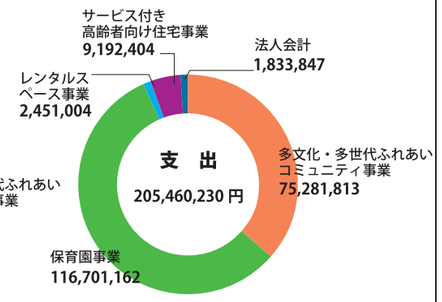
頂いたご寄付はこのほかに、担い手・次世代育成、保育環境向上にも充てられます。

公益財団法人京都 YWCA の組織概要

設　　立：　1923 年
法人格取得：　1935 年
代　表　者：　上村　兪巳子
　　(代表理事)
評　議　員：　10 名
理　　事：　7 名
監　　事：　2 名
会　　員：　120 名
会　　友：　15 名
職　　員：　21 名

＜財政　2023 年度＞
収入：208,806,620 円
支出：205,460,230 円（減価償却費を含む）





ご寄付の報告

2023 年度も多くの皆さまにご寄付いただきました。心より感謝申し上げます。

今後も引き続き、女性と子どもをエンパワーし、「共に生きる社会」を目指して、「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」を推進してまいります。

2023 年度募金達成額　9,002,151 円　以下は募金達成額内訳

部門名	金額	部門名	金額
ミッション推進活動運営委員会	374,904	保育園	505,238
親・子育ち支援活動委員会	193,871	自立援助ホーム「カルーナ」	1,354,700
多文化共生委員会	1,017,904	法人運営を支える募金＊	464,510
平和・環境委員会	45,727	100 周年記念募金	4,429,624
ユース委員会	33,000	**(100 周年記念募金最終達成額 10,510,949)**	
ファンドレイジング委員会	37,980	賛助費＊	185,000
ふれあいの居場所「うららかふぇ」	359,693		

2024年度も京都YWCAの事業・活動へのご支援をお願いいたします

▶多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり … 京都 YWCA が進める「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」事業全体を支えていただきます。

▶自立援助ホーム「カルーナ」… 社会的養護の必要な若い女性の自立・自律を支援しています。

▶親と子どもの育ちを支援…… 親子が安心して出会える豊かな居場所を提供する活動をしています。

▶多文化共生のための活動

・外国人のための相談事業 …… 日本で暮らす外国人が直面するさまざまな問題の解決を支援しています。

・日本語学習支援 …… 保育付きクラスを設け、生活保護受給者の授業料を免除しています。

・多文化ルーツの子ども支援 …… 子どもたちの学習支援をし、社会経験の機会を提供しています。

▶平和と環境のための活動…… さまざまな社会問題を学び、持続可能な社会をめざします。

▶ユースの活動 …… 中・高生を含めた若い女性に「社会を変えるリーダーシップ」を育む機会を提供します。

▶一般募金（法人支援）＊ …… 事業を持続可能にするために法人運営を支えていただきます。

▶賛助員＊ …… 年会費を払って事業を持続的に支えていただく方々です。ニュースレター等をお送りします。　（1口5千円（個人）、1万円（法人））

（＊のついた項目以外、ご寄付は税制優遇措置の対象です）

ご寄付の方法

①金融機関での振り込み　＊通信欄に上記の募金項目からご寄付いただく項目をご記入ください。

▶銀行振込：京都銀行府庁前支店　普通）　92871　　口座名義　公益財団法人京都ＹＷＣＡ

▶郵便振替：０１０８０－９－１５６６　　口座名義　公益財団法人京都ＹＷＣＡ

②「多世代・多文化ふれあいコミュニティ」事業へのオンラインによるご寄付

こちらのサイトから　　https://congrant.com/project/kyotoywca/4775

③現金によるご寄付

京都 YWCA 事務所にて開館時間内でお受けしております。（事務所受付時間：9:00 ～ 17:30）

税制上の優遇措置について

●個人によるご寄付：確定申告により、税額控除もしくは所得税控除が受けられます。

●法人によるご寄付：事業所得の算出の際、一定の限度額の範囲で損金に算入できます。

古都に咲いて100年

女性の視点から
社会の変革をめざした歴史を
未来へつなぐ

公益財団法人　京都 YWCA
〒602-8019
京都市上京区室町通出水上ル近衛町 44
tel. 075-431-0351　fax. 075-431-0352
e-mail. office@kyoto.ywca.or.jp
https://kyoto.ywca.or.jp

LINE　Facebook　Instagram　X

公益財団法人京都 YWCA　2023年度事業報告書　2024年7月発行